

堀越千秋10回忌記念ライブ

"Nos Reunimos por Siempre"

2025年11月1日(土)

開場13:30/開演14:00

高円寺タブラオ・エスペランサ

6,500円(1ドリンク+タパス付)



エンリケ坂井 / 俵 英三 / 若林雅人 / 石塚隆充 / 小林 亮
梶山彩沙 / 川島桂子 / 東仲一矩 (友情出演)

ご予約: reserva@tablaoesperanza.jp



ご予約メール

(Photo: Yuki Omori)

堀越千秋10回忌記念ライブ "Nos Reunimos por Siempre"



(c)Hidetoshi Kumagai

慌ただしく不安も多い昨今、「たまにはチアキのことを思い出しながら、顔を合わせて笑い合いたいじゃない」とお声をかければ、素晴らしい出演者がお集まりくださった。チアキの人徳、だよなぁ、ワカバヤシ。

"Nos reunimos por siempre --- 僕達は、永遠に集う"
皆様ぜひ共に、楽しみにいらしてください。

堀越千秋 - Chiaki Horikoshi (画家、陶芸家、エッセイスト、カンタオール)

48 年東京生まれ。東京芸術大学大学院在学中にヨーロッパ各地を放浪。スペイン政府給付留学生からマドリッドに定住し、世界各地で活動を展開。スペインの爆発的アート感を我が物としつつ、その活動は絵画を超えてエッセイ、陶芸、フラメンコ、ことにカンテの目利きでありカンタオールであったことは、日本に稀有なアーティストとして記憶される。著書に「渋好み純粋正統フラメンコ狂日記」「赤土色のスペイン」CD「望郷のソレア」「陽のソレア」等多数。マドリッド名誉市民。2025 年日本フラメンコ協会功労賞受賞。



エンリケ坂井 (ギター)

岐阜県出身。16 歳よりフラメンコギターを志し72 年渡西、マドリッドのタブラオに長期出演等を経て77 年帰国。スペインの一流アーティストを招きコンサートを催す。88 年セビージャ市に招かれビエナル・フラメンコに出演。カンテの普及にも力を注ぎ、CD「フラメンコの深い炎 1.2.3」「グランクロナ・カ・デル・カンテ 1-40」を制作。伝統的な深いフィーリングのフラメンコギターを弾く、世界にも数少ない名手である。



若林雅人 (ギター)

65 年東京生まれ。87 年マドリッド美術留学中に堀越千秋と意気投合。16 年に氏が亡くなるまで、テレビ、ラジオ、ライブ、CD の伴奏を担当。04 年より美術作品制作と並行して、日本人フラメンコ CD 制作、評論等の執筆活動を行う。また本人作詞作曲による日本語フラメンコポップス「ギターラ・アマリージャ」「阿佐ヶ谷オーレ!」を発表。23 年日本フラメンコ協会「フラメンコのちから」富山公演にゲスト出演。



小林 亮 (ギター)

大学在学中にフラメンコと出会い、98 年ギタリスト・ハイメ吉川に師事。00 年より2 年3 ヶ月に渡りスペインに留学。その後も渡西を繰り返しながら、多くの日西アーティストの伴奏を中心にプロとして活動する他、ギターやパルマの教授活動も行っている。23 年全スペイン録音のソロ・アルバム『Rio de la Frontera』を発売、リサイタルを日本各地及びスペイン・ヘレスで行い称賛を浴びた。



川島桂子 (カンテ)

東京出身。アントニオ・マイレーナの一枚のレコードをきっかけにカンテ・フラメンコの世界に没入。ペペ島田らの下でコンパスを学びつつカンテを独習。渡西を繰り返す中で、スペイン国宝級の歌手であるファミリア・アグヘータらと親交を深めながら、その気風と演唱を身に付けた。現在、多くの舞踊家の伴唱をつとめ、カンテ・ソロの分野にも意欲を燃やす、数少ない日本人カンタオーラの一人。



俵 英三 (ギター)

82 年渡西、ディエゴ・デ・モロンに師事。在西中フェスティバル・デ・ヘレス、セビージャのビエナル等にドロレス・アグヘータやコンチャ・バルガスら生え抜きのヒターノの伴奏者として出演する一方、ヘレスのブレリアの名手やプーロなカンタオール達を日本に招聘。04 年日本に活動拠点を移し、日本のアフィシオンを育てることに貢献。現在、脳神経系手術後のリハビリ中も、そのフラメンコ愛は衰えることを知らない。



石塚隆充 (カンテ)

名実ともに日本を代表するフラメンコ歌手。98 年スペイン留学、カンテを学びながらタブラオやメディアに出演。同時期、共にヘレスで暮らした沖仁とのユニット「Taka y Jin」結成。06 年に帰国後、ジャズやラテンその他の音楽家との共演、後進の指導を開始。その活動は国境を超えて舞台の音楽監修、作編曲、各種テレビ出演にも及ぶ。24 年4 枚目の最新ソロアルバム『Retorno (al Clasico)』をリリース。



梶山彩沙 (バイレ)

87 年福岡県出身。幼少よりシンクロナイズド・スイミングチームに身を置き体の基礎を作る。引退後フラメンコに出会い日本・スペインの一流アーティストに師事。08 年日本フラメンコ協会新人公演において奨励賞を受賞以降、日西のコンクールで多数受賞。15 年と17 年には堀越千秋監修の"Cúmbre Flamenco en Instituto Cervantes"にも抜擢。現在マラガ在住、日西にまたがるアーティスト活動を展開中。



東仲一矩 (バイレ)

17 歳の頃にフラメンコに興味を持ち、ギターを三好保彦氏、舞踊を伴須美氏に師事。70 年渡西。マノレテ、トーマス・マドリ、エル・グイト等に師事。スウェーデン国立舞踊アカデミーの講師として滞在後、スペインのラファエル・デ・コルドバ舞踊団第一ソリストとしてイタリア、ベルギー、バルセロナ公演に参加。帰国後は神戸を拠点として活動し、文化賞を多数受賞。現在も意欲的に創作活動を行っている。